

平成13年度 農村景観写真
コンクール応募作品から
1 宇佐タミ子さん(後野上)
2 佐藤セツ子さん(相模間)
3 佐藤英子さん(相模間)
4 坂本八重子さん(梶屋)
5 帆足榮子さん(中黒)
6 帆足廣子さん(中黒)
4ページに関連記事

広報 にのえ



もくじ



まちを記録する	2	通学合宿/明倫幼稚園	17
身障支援費制度	6	図書館だより	18
合併を考える100人会議	7	文化センターイベント情報	19
短期連載:市町村合併	8	まちの話題/交通安全	20
若い声を聴いてほしい	10	くらしの情報	22
老人クラブ優良表彰	12	幸せになろうね/当番医	24
保健・福祉	13	歳時記/	
環境/こちら119番	14	新連載このえ時間旅行	25
農業委員会だより	15	人の動き・ふれあいタイム	26
教育委員会だより	16		



まちを記録する



おおいたインフォメーションハウス
宮崎和恵さんの講演
タウン誌づくりから見える「ト・モノ」
「大分のまちを元気にしたい。大分のまちを一緒に盛り上げたい。ずっとそう思ってきました。それには、自らが楽しむことが大切で、それが雑誌に現れ読者に伝わります。」という語る宮崎さん。
大分を九重に置きかえ、
「九重の町を元気にしたい」。
この町で情報紙を作ってみようか、そんなことを感じさせてくれる講演でした。

地域をイキイキさせるには、まず足元から。
地域のことを良く知ることが大事です。
それだけでなく、記録し、みなさんへ伝え、さらに効果的。
ひとりでだけでなく、みんなでやると、大きな力になる。
地域の情報も同じです。
お互いに情報を共有することで、何か取り組んでみようか、と思い始めるはず。

こんな言葉も良く聞きます。
「これからは、情報を受けるだけでなく、発信することが大切だ」
記録し、伝えること。この価値が増えています。
さあ、みなさんも始めてみませんか？
技術がすすみ、記録、発信することは、以前に比べ、とても簡単になりました。
何よりも楽しいことです。
その楽しい声を今回は、集めてみました。

8月28日、「誇りと活力あるむらづくりブロック別研修会」が玖珠町三日月の滝で行われました。この中で、地域情報紙づくりの研修が、「シティ情報おおいた」などを発行している「おおいたインフォメーションハウス」の宮崎和恵さんをお迎えして行われました。

九重町からは、JA飯田女性部のみなさんが参加。初めての情報紙づくりにチャレンジしました。研修では、まず、宮崎さんの講演があり、(写真)その後、班に分かれて情報紙づくりです。講演で学んだように、JA飯田女性部のみなさんの班も、まずネタ出しです。「飯田東部地区の運動会」や「生活の知恵」さらには、「イノシシ被害についての町長との対談」のネタが次々と出てきました。

そのネタを紙面に割り振り、最後は、新聞のタイトルを、「季刊 夢・女性通信」と名付けました。講師の宮崎和恵さんからは、「モノがドーンと配置され、楽しげな雰囲気ですね」と評価されていました。

研修に参加したJA飯田女性部長の田中美美さん(無田中一)は、「とても楽しいです。思ったより楽に出来ました。こういうのは、地域にないから、村おこしの一環としても取り組みたい」と話していました。

地域の情報紙を作ってみようか



ほのぼのしているけど、一生懸命を伝えたい ～トマトだより

町内のトマト農家や、関係者のみなさんに月に一度届いている新聞があります。

それが、トマトだよりです。この新聞、元をたどると、昭和63年、トマト部会員の連絡網としてスタートしました。現在の形になったのが平成4年。それから、10年間、112号を重ね現在に至っています。最初の頃は、トマトの出荷時期のみの発行でしたが、それ以外にもみなさんに楽しんでもらおうと、毎月発行になりました。その時に登場したのが、今やトマトだより一の人気コーナー、「お宅訪問」。タイトルどおり、生産者の家に訪問、いろいろな話を聞くものです。話が弾んで、午前様になることもたまには……。

このコーナーには、訪問した家族の写真が載っていますが、見ると、おもしろいことに気づきます。旦那さんが、奥さんの肩に手をかけている写真がとて多いことです。これは、編集委員のみなさんの「やらせ」です。

「みなさん恥ずかしがるんですね。なかなかやってくれなくて、最後は、旦那さんの手をつかんで、むりやり奥さんの肩に持つていくことがありますよ。最初は、堅いんです

が、何枚も写真を撮ると、いい表情になってくるんですよ。」

本当にいい表情で写真に写っています。恥ずかしいけど、ちょっと誇らしげ。それが紙面にも良く出ています。ほぼ全面手書きによる紙面も、暖かさを増しています。

こういった通信を作っていて、一番大変なことは、継続すること。毎月定期的に発行しているトマト部会だよりは、表彰ものの通信です。

トマトを作っていないくても、とても楽しく読める紙面になっています。

こんな素敵な新聞を中心的に作っているのは、4人。

月に1回、編集会議を開き、その場で作り上げます。

今回は、その会議におじゃましました。



最新号

編集会議訪問



▲前列左 佐藤恵美子さん
右 平山セイ子さん
後列左 財津 眞弓さん
右 廣田 栄子さん

財津 眞弓 さん
(尾本)

中心になって作っているのが財津眞弓さんです。

「自宅を訪問して2時間ぐらいお話を聞くんですが、今まで知らなかったことを知ることが楽しいです。それがきっかけであいさつを交わす程度の人だったのが、身近に感じるときも作ってきて良かったなあ、と思います。世界が広がりました。

紙面に出てもらったり、原稿を書いてもらったりするのが大変です。夏は、ハウスの中で作業をするので、くたくたです。それから集まって作ります。いつも夜11時頃までかかっています。」

こんなに苦勞しても出し続ける力の元は何なのでしょう。か。「トマトに出会って、初めて農家に来て良かったなあ、と思ったんですよ。トマトだよりを作っていて、どこに行っても、農家のみなさんの自信というのかなあ、誇りをものすごく感じます。それに一生懸命生きているなあ、と」

この力の元が財津さんの一番伝えたいことなのかもしれません。ほのぼのしているけど、一生懸命、そして誇らしげ。財津さんたちをはじめとしたトマト農家の皆さんの元気が伝わるトマトだよりは、今月も発行されています。

ほかの編集委員のみなさんにもお話をうかがいました。

佐藤恵美子さん(茅原小野)

夫の吉見さんもイラストで参加。

「やはり読者のみなさんに喜んでもらえるのが、一番うれしいです。トマトだよりづくりを通じて、私自身も元気をもらっている気がします。農家だけの枠にとらわれずに、外から農家を見てみたい、そして、農家でもこういったことができるんだ、というのを示したい。それが続けることにつながっているのかなあ、と思います。」

廣田 栄子さん(菅原本村)

「楽しみながらやっています。ひとりの肩にのしかからないように、みんなでやっていくのがいいですね。(編集会議のある)20日前後になると、自然と農協に足が向いていきますね。それに作りながら、トマト作りなどのことで、情報交換できるし、取材などをしながら出会いが広がっていくのがいいです。年齢を超えて、対等に話ができるのが魅力です。」

平山 セイ子 さん(栗原)

「読む立場のときは、毎月届くのを楽しみにしていました。それが、反対に作る立場となると、こんなに難しいのか、と思いました。でも作るのは、楽しいです。編集会議も楽しみにしています。みんなとトマト以外の話をするのが楽しいですね。もちろん、トマトの話も。私はトマトを作り始めて30年になるのですが、部会だよりを作っていて、自分の所と違う作り方があるのを知ってびっくりすることもあります。勉強になります。」





「20世紀の農村や生活の風景を残したい」農村女性グループで活躍するみなさんで作られた「九重を残そう会」が、写真コンクールの準備を進めています。

とはいっても、初めてカメラを手にした人ばかり。代表の帆足美由紀さん（書画1・写真右端）もその一人です。この日も、生まれて初めて撮ったという写真を持参、会議の場が臨時の合評会となりました。帆足さんに写真ができたあがったときの感想を聞いてみました。

「なんか恥ずかしかったですね。あ、うまく撮れたなあ、と思ったら、変な帽子のひさしが写って失敗しました。なかなかうまくいきませんね。新しい趣味までいってませんが、これからがんばろうと思います」。

今度、夫の大きさんが古いカメラを譲ってくれるそうです。

農村景観写真コンクールは、来春開催予定です。

※26ページに2つの写真コンテストのお知らせをしています。みなさんもチャレンジしてみたい方がいます。

カメラを手にしてみようか 農村風景を残したい



昨年度行われた農村景観写真コンクールに出品した3人におうかがいしました。表紙の写真と見比べて読んでください。

帆足 榮子 さん（中果）

表紙写真5を出版

帆足さんは、以前から、子どもの写真を撮る機会はありませんでしたが、田舎の風景写真を撮るのは初めてだったそうです。今まで何とはなしに見ていた夕焼け一つでも季節によって違うなど、を発見しました。自分は良いところに住んでいるなあ、とつくづく思うそうです。楽しいことに、帆足さんが写真を撮り始めると、家族みんながカメラを持ち始めました。一番楽しいのは、写真ができたあがったとき。写真をお互いに観ながら、「良く撮れているね」とか話し合うそうです。田舎と家族の良さを感じる帆足さんです。



▲インタビューの途中からスガ子さん（88歳・写真左）が参加。いつそにぎやかになりました。スガ子さんも写真を撮ります。本当にお元気。そして多才！

佐藤 セツ子 さん（相狭間）

表紙写真2を出版

佐藤さんは、自宅で夫の金光さんとともにしいたけ栽培に取り組んでいます。以前から、カメラを手にすることはありましたが、こんな形で、発表するのは初めてだったそうです。佐藤さん曰く「まだ、趣味にも行っていません。（コンクールは）参加することに意義があると思っています。」と謙遜しますが、なかなかの腕前。

写真を撮ることを通じてどんなことを感じましたか、と質問するとこんな答が。「普段何気なく見ている風景のすばらしさというか、地域の良さを発見できた気がします。九重町には、四季折々のいい素材がたくさんですね。」

佐藤さん宅には、以前から写真に親しむ環境が整っていました。というのも夫の金光さんの趣味が写真だったからです。しかし、セツ子さんは、カメラにお金をかける金光さんの気持ちになかなか理解できなかったそうです。今は違います。昔、金光さんが撮ったという写真を出しながら、「今思うと、子ども達をいっぱい撮っていて、あのころには帰れないので、良かったなあ、と思います」。

30年目にして、主人の趣味が理解できた感じですね、と笑っていました。



▲夫の金光さんが撮った写真（左）とセツ子さんの撮った写真（右）と愛用のカメラ。

▲左写真の赤ちゃんのママが、右写真中央のかおりさんです

佐藤 英子 さん（相狭間）

表紙写真3を出版

「簡単なスナップ写真を撮ったことはありますが、コンクールは初めてです」と話す佐藤さん。九重町は豊かな自然が残っていると、いつの間にか、昔と風景がずいぶん変わっていることを感じていたようです。

「何でも新しいものに目が行きがちですが、昔の風景は、いくらお金を出しても買えないものです。大事にしないと。」佐藤さんの写真テクニックは、めずらしいものを見つけたら、パチリ。コンクール入賞作も、たまたま見かけた蔵の家紋がめずらしかったから、撮りました。

「これからはめずらしいものがあつたら撮ります。そういえば、家のそばにカモが一匹いるんですよ」と話す佐藤さん。そのカモも写真のモデルにきつとなることでしょう。

ホームページに田舎の味をのせて



武石耕一郎さん（生竜・旬菜ふくしゅう経営）は、1年前からホームページを開設し、地元でできる旬の食材を使った田舎の味を紹介しています。ホームページを始めたきっかけは、情報受けるだけでなく、これからは発信することが大切だ、と思ったこと。ホームページ制作期間は1ヶ月。大変でしたが、それ以上にあとの楽しみが。全国のみなさんとの交流が始まりました。東京銀座のあるデパートから野菜の取り扱いの申し込みもあったそうです。

武石さんのホームページに、スローフードという言葉が最近よく出ています。スローフードとは、放っておいたら消えそうな味を守る、とか、郷土料理を守るといった運動を言います。それは、食や田舎生活を見直すことにつながります。

「自分たちだって採れたての野菜のうまさがわかる。ましてや、マチの人たちは、感動すると思いますよ。食に関しては、今や田舎の時代。スローフードが見直される時が来ると

信じていました。器、盛りつけ方、素材（食材）をもっと引き出す調理法などで、スローフードの再発見ができますし、新しいスローフードが見つかるかもしれません。顔が見えるスローフードの食材を作っているみなさんと会話してホームページに掲載してみたいです」

武石さんのホームページにこんなことが書かれていました。「おふくろの味って旬の食材で味わうものだと思います。旬のものがふんだんに採れる田舎は、最高の贅沢だと思わせてくれる言葉です。」

田舎生活を選んで良かったですか、の質問に「まだ、わからないですよ」と答える笑顔には、まんざらでもないという表情が浮かんでいました。

武石さんのホームページアドレス：<http://fukusyou.net/>
*武石さんは、商工会の青年部長です。青年部でもホームページの講習会を開いています。商工会青年部のホームページもまもなく開設です。



空（しえる）新聞



この新聞を発行しているのは、宝泉寺温泉・龍泉閣の若女将、関屋典子さん。きっかけは、2年前。関屋さんが2人目の子ども海（めえる）ちゃんを妊娠中のことです。なかなかお客さんにあいさつができなく、なにかできないだろうかと思ったのが、この空（しえる）新聞。名前は、息子の空（しえる）くんになんで。何より、九重町のいいところをたくさん紹介したいと思ったそうです。最初は、200部でスタート。以来毎月欠かさず発行して、今や2,000部発行（!）。

「たくさんの人に見てもらえてうれしいです。自分で取材をして回るのは大変ですが、とても楽しいです」と話す関屋さんは、インターネットのホームページも開設。こちらも人気を集めています。

新聞の内容ですが、九重町のイベント情報や、周辺の観光

スポット紹介。おいしいソフトクリーム食べ歩きなど、魅力的な記事が満載されています。そして目を引くのが、若女将日記。関屋さんが日頃感じていることや、子育てについて書かれています。「書く以上は素顔を見せなければ。ありのままを知ってもらわなければ」という関屋さんの言葉どおり、素直な文章は、読み応えありです。19歳で若女将になったという関屋さんの体験をもとに将来「19歳若女将プロジェクト」という本を発行したいと夢を語ってくれました。「宝泉寺温泉をもっと有名な所にしたいです。それに新聞を作っていなかったら、町を見る目が違っていたと思います」と話す関屋さん。九重町のまちづくり委員でもあります。日々、仕事のこと、子どものこと、そして町のことを考えています。



記憶が一番の財産～ふるさとの姿を後世に



岩ノ上（25戸）のみなさんが、地区の風景や、祭り、家族写真をあつめた写真集「ふるさと岩ノ上集落のすがた」を作りました。

記憶が一番の財産、これを何かの形で残したい、と地区のみなさんがカメラを手に1年がかりで作ったものです。

「これを作っている段階で、改めてふるさとを再発見ができた。ありのままの岩ノ上を写した。子どもが大きくなったとき、いい記念になるのではないかと実行委員のみなさんは

話していました。全17ページのうち、最後の8ページは、余白になっており、アルバム

としても使えるようにしてあります。今回作ったのは、40部で、1冊あたりのコストは、8,200円、積み立てと個人負担でまかなったそうです。地区のみなさんに大変好評で、中には、遠方に出た子どもに、と2冊買っていく人もいたそうです。

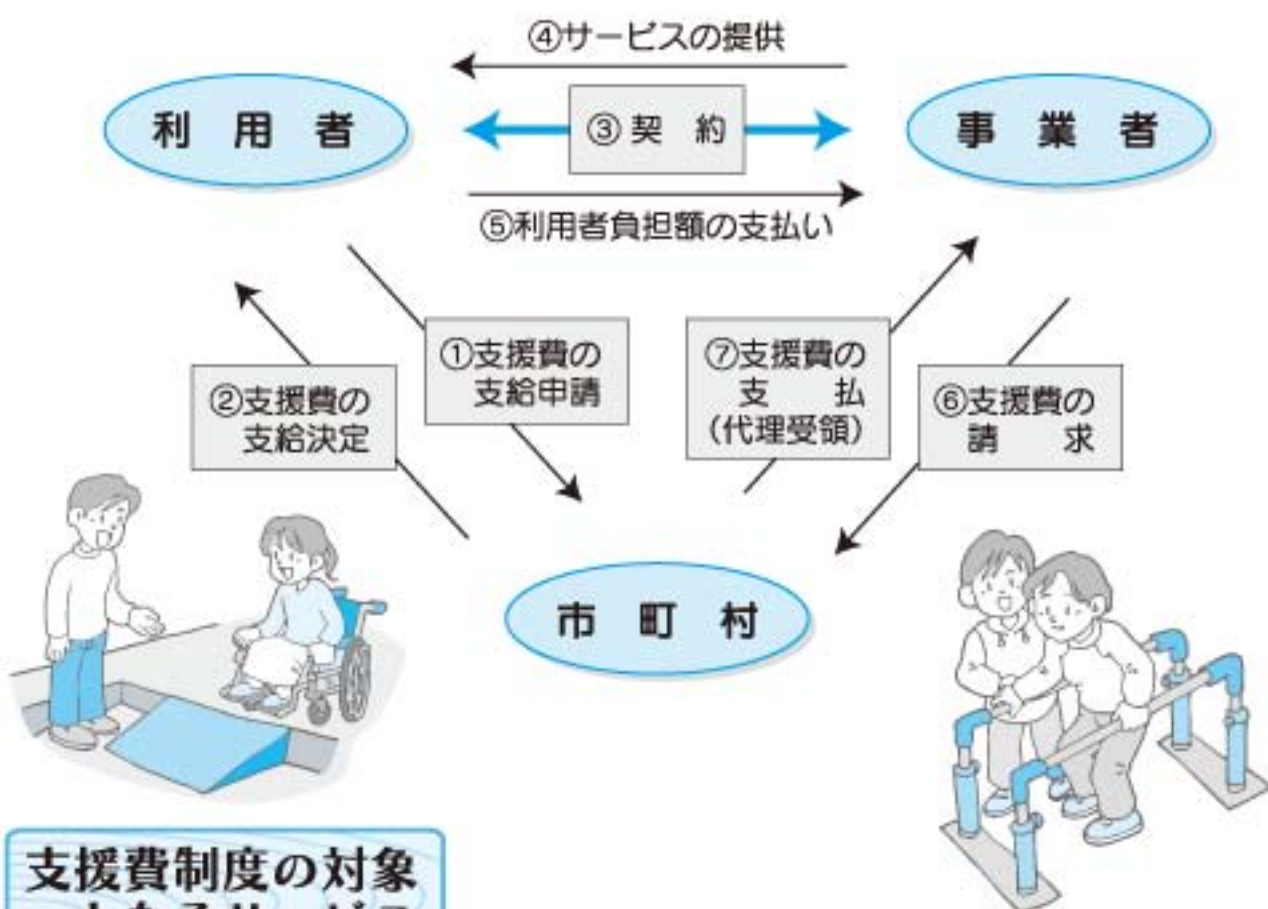
この写真集は、図書館にも1冊寄贈いただいています。今後、作ってみたい人は、参考にしたいかがでしょうか。



障害者に対する福祉サービスは、これまでは行政がサービスの内容や提供先を決定していた「措置制度」でしたが、平成15年4からは利用者の自己決定を尊重した「支援費制度」に変わります。これにより、利用者自らがサービスを選択し、事業者と契約してサービスを利用するようになります。

支援費制度のしくみ

利用者自らがサービスを選択し、事業者と対等な立場で契約してサービスを利用します。このときのサービス費用の一部を利用者が負担し、残りは支援費として行政が支払います。



支援費制度の対象となるサービス

在宅で利用するサービス

- 身体障害者のホームヘルプ、デイサービス、ショートステイ
- 知的障害者のホームヘルプ、デイサービス、ショートステイ、グループホーム
- 障害児のホームヘルプ、デイサービス、ショートステイ

施設に入・通所して利用するサービス

- 身体障害者の更生施設・療養施設・授産施設
- 知的障害者の更生施設・授産施設・通勤寮

※ 支援費制度に移行するのは上記のみで、それ以外のサービスは今までと変わりません。

「支援費制度」を利用するには、町に申請を行い支給決定を受ける必要があります。申請の仕方等の詳しい内容については、保健福祉課ふれあい福祉係（6-3802）までお問い合わせください。



町内の各種団体の代表者などで構成される市町村合併を考える100人会議（会長日野爾郎さん）で熱い議論が続いています。

この会は、住民が主体になって市町村合併を考えていくというもので、これまで、2回開催されました。

2回目となる10月29日の会議では、事務局の企画調整課長から、これまでの経過・調査研究について、まず報告がありました。

その後、参加者が2班に分かれて討論。

現在、合併の方向として、大きく分けて①玖珠町だけでなく湯布院町などを含めた広い範囲の合併②玖珠町との2町合併の2つのパターンが検討されています。

今回は、各班がそれぞれのパターンを議論しました。

玖珠町との2町合併を考える班では

1. 歴史的・地理的・文化的に考えて玖珠町との合併が良い。
2. 生活圏も一緒で、自然な形。今までの生活の延長でいける。湯布院とは、地形・水系などいろいろな面で違う。これまでの農業共済、森林組合などの例から見て2町合併がスムーズなのは、2町合併で力をつけ、次の合併へ進めばよい。「くす」というイメージには、すでに玖珠町、九重町が一緒になっている。
3. 2町合併の方が（多くの町と合併するより）九重町の個性が残せるのではないかと、といった支持意見が出されました。



「100人会議をはじめとした住民の意見を背景にしないとリーダーも動けない。住民が積極的にこの問題に取り組まなければならない」

この会議での発言です。

今後、100人会議は、①湯布院町や久住町、玖珠町の住民との意見交換、②議会との意見交換などを行いながら、町への提言を行っていくことになりました。

湯布院町などを含めた大きな合併を考える班では

1. 観光・農業面でメリットが大きく、多くの人が集まる町が出来、活発になる
2. 足腰の強い町と合併する方がよい。
3. 近い将来合併しなおすより、大きな合併を。

などの支持する意見が出されました。

その一方で、次のような慎重論も。

1. 住民サービスの低下が心配される。
2. 確かに観光面では良いかもしれないが、ほかに良いところが見つからない。

また、大きな合併をするには、17年3月の期限を考えたとき、時間的に厳しい。この際徹底的に議論し、期限にとらわれないことが必要という意見も出されました。

玖珠郡任意合併協議会がホームページ開設

玖珠郡任意合併協議会は、九重町と玖珠町の2町合併を目指して、今年5月20日に発足しました。

市町村合併をすすめるためには、住民のみなさんのご理解が不可欠で、そのための情報を提供する場として、今回ホームページを開設しました。

アドレス <http://www10.ocn.ne.jp/~kusugun/>
みなさんの訪問をお待ちしています。

また、ご意見、ご質問をお寄せくださるよう併せてお願いします。

掲載項目

協議会の紹介、合併に関するQ&A、玖珠九重地域のすがた、質問箱ほか
玖珠郡任意合併協議会

☎ 3-9288

(12月1日から73-9288)



短期連載：市町村合併、私はこう考える



日野賢二さん（竜門）

大切なのは地域の活性化

私は、玖珠町との2町合併なら、何も変わらないと思います。それより、久住山を中心とした一体となった町になるといいと思います。

クジュウをシンボルにし、日本中どこに行っても通用するような町になってほしいと思います。それに、人が知ってくれるほど、自分の地域は愛せるものではないでしょうか。

いずれの合併を選ぶにしても町の規模は大きくなるのですが、一番大切なのは、地域の活性化です。

町が合併したからといって、私たちの普通の生活というのは変わりません。地域はそのまま残ります。地域の活性化なしには、合併しても、たとえば、役場まで遠くなるとかのデメリットばかりがでてきて、変わらないどころか、かえって悪くなった、という結果になると思います。

サラダのように持ち味を活かして

九重町は、4地区が合併してできあがったもので、各地区でいろいろな取り組みがなされています。九重町は、中心部がないことを逆手に取り、それぞれの地域が活性化し、いいまちづくりができた、という面があると思います。私は、これを今後活かすべきだと思いますし、規模が大きくなるこれからは、その価値が増すのでは、と思います。

いくつかの町が一緒になってミックスジュースになってしまうのではなく、それぞれの持ち味を活かしたサラダであってほしい、ということです。それはすなわち、個性を持った地域が活性化し、その持ち味が活かされた町だからです。

実ではなく種をまく10年に

タイムリミットまでに合併をすると、地方交付税などで恩恵を受けることができますが、このお金は、地域が元気になるためのお金であってほしいです。

合併を挟んでこれから10年間、若い人たちが夢を持てるような、まちづくりの（実ではなく）種をまいてほしいと思います。種なら、そんなに経費がかからないし、育て方によっては、大きな実がたくさんなります。実だけまくのであれば、若い人たちに何も残せないです。お金を浪費する10年ではなく、種まきする10年であってほしいです。

これからとても大切な時期ですが、住民は無関心にならず、合併により「どういう風に変わっていくか」を知り、「どういう風に変えていくかを」を考えないといけないと思います。無関心だったら何も変わりません。

町は、住民との対話の中から、「地域活性化のための合併」という視点に立った将来ビジョンを作っていくべきだと思います。これまでは、ほかの町のすることを真似るのは、恥ずかしい、と感じることがありましたが、お互いにいいところは出し合い、自分たちのものにすればいいと思います。行政の中で一つのチームを作り、そこに若手職員が集まり、いろいろなところに行ってもらい、そこで得たまちづくりの素材を住民に提供し、その素材を料理するかどうか、判断してもらう。そんな仕組みづくりも良いのではないのでしょうか。いずれにしても、まちづくりに多くの住民が参加することが必要です。

「市町村合併を考える100人会議」[※]がいずれは、「地域を考える100人会議」になって、まちづくりと一緒に考える機関になってくれるといいなあ、と思っています。

※日野さんは「市町村合併を考える100人会議（7ページ参照）」の副会長です。



佐藤博美さん
（後河内）

まず、「町の意志」を

まず、10年先、20年先のあるべき姿、未来像を、町がリーダーシップをとって考えるべきだと思います。行政のプロである町の執行部や職員、議員が考え、あるべき姿、将来ビジョンを作る。

そのあるべき姿にするために、この町と合併をするとか、合併せずに単独で行くという「町の意志」を出し、その「町の意志」を住民と伝え、完成していく流れにすべきだと思います。

町は、最初に住民のニーズを聞くつもりですが、住民はとまどうだけなのではないでしょうか。

私は、この「町の意志」が住民と共有できたものであれば、この町と合併しようと、合併しないうと、どちらでも良いです。

いずれにしても、このまま真剣に将来ビジョンを描かず、合併をしても、過疎化などで見られるような、国に甘える姿勢は直らず、国の犯したことに同じ過ちを犯すと思います。

行政に任せてもダメ、住民に任せてもダメ

私は、有機農業を始めたとき、消費者のニーズがあるからというのではなく、将来農業はこうあるべきだという自分の意志として始めました。

（最近の消費者ニーズの安全・安心志向や地産地消、グリーンツーリズムなどに見られるように、佐藤さんの持つ意志と時代のニーズがずいぶん近づいてきましたね、という質問に対して）町も同じことだと思ふのです。しっかり考えた将来像があり、意志のあるまちづくりをしてあげれば、きっと時代とあっている町になると思います。町はどうすべきか、とか、住民自治を考えたとき、私は、かつての公民館や自治公民館の存在を思い浮かべます。そこでは、行政と住民が意見を戦わせていました。

しかし、時代の流れなのではなかろうか、町の機能を中央に集め、そこから発信するような形をやがて取るようになってきました。もう一度公民館が持っていた機能を見直すべきです。「町の意志」を自治公民館などで、住民と行政が議論することが良いと思います。特に合併して規模が大きくなったときは、この意義が高まると思います。かつて九重町には、明確な意志があり、それを住民と戦わせ、まちを作っていく仕組みがあったと思います。米飯給食を導入した時もそうでした。



橋爪 文子 さん (中央1) 数字に現れない町の姿

いろんな資料や情勢を見ると合併せざるを得ないのかなと思いますが、いざ合併した後の姿が良く見えないので、不安があるとい

う人が多いのではないのでしょうか。

まだわからないことがたくさんありますが、どちらかというと合併は反対です。

国や県など行政面からの見方は、その地域の数字に現れる統計で判断されることが多く、合併も数字による説得で判断をせまられがちです。そこに住んでいる人の暮らしや風土から生まれる文化や歴史、心意気や精神というものは数字の中には現れてきません。でも、それこそが町づくり、地域づくりの原動力になり、町の個性になると思うのです。

そのことがないがしろになるような合併でしたら意味がないのではないのでしょうか。

町の姿を見直す良いチャンス

私は、以前、公民館活動に関わっていました。昔の公民館は、青年団や婦人会、体育協会に消防団、と本当にいろいろな人が集まっていました。住民同士が大いに語り合い、いろんな計画をし、行政と住民が熱っぽく接していました。そういう中から地域の自治と活力が生まれていたと思います。町が大きくなるとそういった地域のエネルギーと個性はますます遠のいていくような気がします。

現在では元気のある飯田地区をはじめ、各地区に各種の活

発なグループがあります。こんなグループが一つにまとまって、住民も多く参加してまちづくりをできないものでしょうか。ほかの町もいろんな工夫をして個性のあるまちづくりをしています。

私は、今こそ、町の持っている個性を見直すべきだと思います。あの活力を取り戻したいと願っています。合併問題は、良いチャンスです。

九重町は、国からではなく、地域の住民から動きを起こす。そういったパワーを持つ町だと思います。

住民の力で町の個性と自然を守る

今の合併論議は、最初に結論（合併やむなし）めいたのが出ているような気がしてなりません。最初に国の方針が出て、町はそれに従い、という流れ。あくまで地域の住民から出てきたものではありません。そんな中で賛成、反対の意思表示をせよといった難しいところもあります。むしろ意思表示をしない人たちに良い意見があるのではと思います。広い範囲の層に意見を聞きながらじっくりと取り組んでいくべきだと思います。

私は、長者原で観光客を相手に仕事をしているのですが、玖珠・九重を観光で訪れる人の中で50%以上の人が6回以上訪れているという調査結果に感動しています。

それほどにすばらしい、人々を癒すことのできる自然と地域の特性があることに誇りを感じつつ仕事をしています。このことを大切にしていかなければと思っています。

玖珠町でも、湯布院町でも、久住町でもない、九重町の個性と自然を合併の中で守っていけるのでしょうか。それは、私たち自身が考えていかなければならないことです。みんなで考えていかなければならないことです。

出前懇談会

町長が地域に出向いて市町村合併について語り合う出前懇談会が行われています。

10月24日、商工会青年部のみなさんとの懇談会が行われました。この日参加したのは、19名。最初に青年部長の武石耕一郎さん（生庵）から「これからの九重町の中核を担う若い人たちの意見を聞いてもらいたい」とあいさつがあった後、これまでの経過及び市町村合併の背景（生活圏の拡大、新たな課題の発生、地方分権の推進、少子高齢化の進行、財政の悪化）などを町長が説明、意見交換を行いました。この日、青年部は、合併せずに単独で行ったらどうなるか、玖珠町との合併はどうかかなど、3つの質問を準備していましたが、それ以外にも参加者の中から続々と意見が出、熱っぽい議論が展開されていました。

「これまで漠然としていたが、町の方向性が見えてきた。とても大事な問題なので、町には、あせらずじっくり考えてほしい。商工会青年部も一緒に考えていきたい」と参加したみなさんは、話していました。



もちろん、住民と議論することなく、町の意志を完成させるべきではありません。

そのため、町は、しっかりと情報を住民に伝え、住民もそれを受け止めなければなりません。

行政に任せてもダメ、住民に任せてもダメ、ということです。

食と心

将来展望をもった意志があれば、時代とあった町になると私は言いましたが、これからの時代は、よりいっそう本物の農業（食）を守る町、持続可能な地域づくりが必要だと思います。特に食は人間が生きていく上で、一番大切なことです。

それから、「心」を育て、大事にする町を。何が大切なのか理解できる心を。心を育てる、とか言うけど、マインドコントロールなんです。逆に言うと、今の日本人自身が、マインドコントロールされているのではないのでしょうか。それから目覚めさせることが、心を育てることなのではないのでしょうか。

市町村合併、若い人の声を聴いてほしい……

市町村合併アンケート結果から

合併は必要だと思いますか？



今年6月～7月に実施した
行政区懇談会の感想
必要だ 44.8%
必要ない 18.7%
どちらとも思えない 33.2%

	40代	30代	20代	合計
必要だ	12	15	10	37
必要ない	23	23	17	63
どちらとも思えない	19	24	15	58

合併が必要だ!!	40代	30代	20代	合計
地域のイメージが変わり、よくなると思うから	3	3	2	8
公共施設が充実するから	4	3	4	11
少子・高齢化社会に応じた行政機能が進展すると思うから	7	9	7	23
行政の規模が拡大することにより、効率化が進むと思うから	2	6	3	11
行財政が進むと思うから	5	4	0	9
今のままでは財政力を維持出来ずサービスが低下すると思うから	7	7	4	18
その他	1	1	0	2

合併は必要じゃない!!	40代	30代	20代	合計
現在の行政サービスで満足しているから	7	7	5	19
町名がなくなると文化や地域性がなくなるから	8	8	9	25
役所が遠くなり、不便になるから	10	11	8	29
区域が広がると住民の行政に反映されにくくなるから	7	12	9	28
中心部だけよくなり、周辺は過疎化するから	12	11	5	28
いろんな公共施設が廃止されるから	8	12	9	29
合併しなくても共同事務で対応できると思うから	9	12	6	27
その他	1	1	1	3

このアンケートは、若い人たちの意見を聴くため、町づくり委員のみなさんが、町内に住む20代～40代の男女から無作為に抽出した186人に対して行ったアンケート結果です。

アンケートは、郵送。記入してもらった後自宅に回収という方法をとりました。平成14年9月実施。

回答のあった155人の内訳は次のとおりです。

20代：27.1%、30代：36.8%、40代：36.1%

なお、複数回答がありましたので、各質問の回答の合計は、155になりません。また各項目のパーセンテージも回答総数に対するものです。

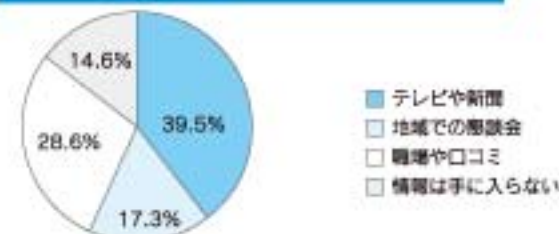
合併のタイプは？



今年6月～7月に実施した
行政区懇談会の感想
玖珠町と2町 30%
2町プラス 54%
日田玖珠広域圏 16%

	40代	30代	20代	合計
① 改組と	26	26	13	65
② 改組・九重を基軸にもっと大きく	10	7	10	27
③ 九重を中心に周辺町村を含めて	3	5	6	14
④ 日田市部・玖珠郡を統合した広域規模	3	4	2	9
⑤ その他	6	7	4	17

合併の情報は、どこで手に入れますか？



	40代	30代	20代	合計
テレビや新聞	27	26	20	73
地域での懇談会	17	13	2	32
職場や口コミ	11	21	21	53
情報は手に入らない	15	9	3	27

どうなる？市町村合併

町づくりの意見番「九さん」



九さん 市町村合併もいよいよタイムリミットを迎えたね

九さん 誰と（どの町と）結婚（合併）するか決めて、挙式の日取りをしないともう時間が無いというところでしょう。

九さん そうそう結婚（合併）の準備は、相当の労力と時間と経費を必要とするからね。合併特例法が切れる期限内での合併を成立させるためには年内には、方針決定をしないと大変なことになるね。

九さん 決断が遅れているんじゃないかという声をあちこちで聞きますが……。

九さん この結婚は、絶対離婚はできないから、慎重にならなければいけないと思うよ。

九さん 急がないと最終的には議会議決が必要なんじゃないかな？

九さん そう、議会との合意で最終決定だけど、事前の話し合いを十二分にしておかないと、簡単に合意に至らないかもね……。

九さん 議会議員は、二月が改選だから……。継続審議ということにはならないかしら……。

九さん うーん。そんなことはないと思うけど……問題は町民意識だね。九重町は、県下58市町村のどこにも負けないような合併議論をやってきたから結果は合意に達すると思うよ。

九さん ところで、今回、「町づくり会議」が町民意向調査を行ったらしいけど、同じ様な調査をどうしてしたのでしょうか？

九さん 同じような調査かも知れないけど、対象者が違うんだよ。行政区の懇談会は、戸主、つまり50歳代から70歳代の年輩の方々の参加が目立つたから、20歳代から40歳代の若年層の声を聞くというのが主な目的だったんだよ。

自由意見から

20代

- 私を含め、多くの20代の方は住民の話し合いなどには参加していないと思う。合併のことに對して、勉強不足なので、今後若い人達も参加しやすい話し合いなどの場があればと思う。合併が九重の自然を守るもので、若い方から、お年寄りまで安心して住み続けられるような環境をつくるものであってほしい。(女)
- 目の先のニンジンにとらわれず、国からの要求期限をすぎてもよいので十分な会議を行って、判断して頂きたい……それが九重町のためになるのであれば……(男)
- 今のままで何も変わらず、合併するのなら、このままでよいと思う。九重町でもっと十分満足して行けることを考えるべき。何か合併して、今以上に良くなるのなら合併も必要だと思う。合併後どのように変わるのか具体的に教えてもらい、その上で考えたい。(女)
- 今後のことを考え、20代30代の意見を大事にして下さい。(男)
- 商売のための合併でなく、住民の生活を主体に考えてほしい。町は(最近うまくいっていない)テーマパークではなく、住民が生活する所。住民自治をどう育てていくかの合併であってほしい。(男)

30代

- 少子・高齢化の事を考えると合併も仕方ないかと思っていますが、合併される日が一日も遅いことを希望しております。(女)
- 反対してもいつかは合併する……という。残念だけどそれが現実だと……。そんな気持ちで考えてます。だからこそ合併してよかったと少しでも思えるように生活の便利さ、育っていく子ども達等いろいろなことを考えていってください。(女)
- こんな大事な問題を決めるのにあまりにも時間がなさすぎます。(女)
- 土日などに懇談会をすれば参加できるのですが、話がどこまで進んでいるか何もわからない。若い私たちでもいろいろなことを知りたいです。(女)
- この合併の案件の中で少しでも子供が伸び伸びとスポーツや学習できる場が充実できればと思っています。(女)

40代

- 合併により行政が肥大化し派閥、地域格差が生じるようでは合併の意味がない。行政がスリム化し住民の声が真っ直ぐに行政へ反映されるような合併を望む。(男)
- 国・県からの予算がとれにくいなら、合併もやむをえない……。 (男)



九さん そつだつたんですか？それで？結果はどうでした？

九さん 結果はね、(上部参照) 極論すると行政区懇談会とは、全然逆の結果だね。

九さん 合併は、反対と言った人が多かったということですか？

九さん そうそう、合併は「必要と思わない」が39.9%「必要と思う」の23.4%を大きく上回った。さらに、合併のパターンについても「二町(玖珠郡合併)」が49.2%で「もっと大きい合併」37.8%大きく上回ったんだ。これは予想外だったね。

九さん どういうことなんだろう？

九さん そうだね。結果をどう受け止めるかが難しいんだけど一つにはね、情報ルートの違いとか、若い層は、新聞やテレビが主な情報源だから……。その影響かもね？

九さん 確かな情報がないということ……？

九さん それと生活実態を踏まえた現実的な選択というが、通勤・通学や買い物などを見ても玖珠町のとの一体感ではあがっていること、それをしっかり見ているということもあると思うよ。

九さん いやどちらのアンケートや調査に重きを置けばいいのかわからない。

九さん どちらをというわけにはいかないね。あくまでも集計結果の数値を数値として受け止めるしかないと思うね。

九さん 町民との対話、そしていろんな調査。これで行政はやるべきことはやったということになるのかしら？

九さん 残された時間がある限り、議論は深めるべきだと思うね。でも、大詰めは遅えたことは間違いないね。後は、「市町村合併を考える100人会議」の意見書、それから「考える町づくり会議」の意見書。この二つが12月の議には出ると聞いているから、結論はもう目の前だと思うよ。

九さん でも、それからまた新たな合流形成が始まりますね。

九さん そうなんだよ。なぜその結論(合併パターン)を出したか、改めて町民に確信を持って説明する義務があるね。

九さん 年末から年明けは、町(行政)に目を離せませんね。

九さん 町の将来がかかっているから、僕たちも積極的な参加をし、声を大きくしないとね。

九さん はい。私も頑張ります。

老人クラブ連合会が 優良団体表彰



九重町老人クラブ連合会が、大きな賞を受けました。

9月26日、天皇皇后両陛下、内閣総理大臣列席の中、東京の日比谷公会堂で全国老人クラブ大会が行われました。

この大会で、九重町老人クラブ連合会が優良団体の表彰を受けました。老人クラブ連合会は、健康づくりのための取り組みを積極的かつ継続的に行っており、これが評価されての受賞です。

9月30日に、町長への受賞の報告がありました。懇談の中で、町長は「九重町の国民健康保険医療費は、県内で2番目に低い水準にある。老人クラブなどの行う健康事業が、大きな貢献をしているのではないかと話しました。」

会長の甲斐重充さん（北方上）は、「これまで、保健福祉課と二人三脚で、健康づくりの取り組みを行ってきたが、思いがけなく、受賞できた。特に継続

して行ったことが評価されたと思う。今後も、健康をテーマにした活動を行っていききたい」と話していました。

老人クラブは、健康をテーマにした新たな取り組みとして、今年度から栄養教室を開いています（左写真）。

「若い頃は干し柿の皮むきの時しか包丁を握ったことはなかった」という甲斐会長もエプロンをして参加です。

「料理教室を通じて、地産地消の大切さも考えていきたい」と甲斐会長は話していました。



清掃の日に合わせて老人クラブが奉仕活動

毎年9月24日は、清掃の日です。これは、昭和46（1971）年のこの日、清掃法ができたことをきっかけに生まれました。

老人クラブは、この日に合わせて町内各地の清掃作業を行いました。右田長寿会でも24日の午前中に野上公民館と豊後中村駅周辺の草刈りなどの清掃を行いました。

会長の吉田大助さん（青山通り）は、「野上の商店街の人通りは、少なくなりましたが、私たち老人クラブは、様々な活動をしながらか地域の活性化に少しでも貢献したい。それに老人クラブに出て、奉仕作業などを行うことで、親睦が深まります。これが自分たちの健康にもつながります」と話していました。



介護教室

介護老人保健施設ケアポート溪和では、ご家族、一般の方々を対象に「介護教室」を開催いたしております。今後の日程は次のとおりです。お気軽にご参加下さい。お問い合わせ先 ケアポート溪和 ☎ 8-8000(白石)

12月10日（火）

急変時の対応（あわてないために）

*開催時間は、よる7時から8時まで

高齢者のインフルエンザの予防

対象者：①65歳以上の人

②60歳以上65歳未満の人であって、心臓・腎臓・呼吸器等の障害を有する人

接種期間：平成14年10月21日～12月28日まで

接種回数：1回

接種費用：1,000円（個人負担）

接種場所：玖珠郡内医療機関

この予防接種は、強制ではありません。個人予防のために行うものです。全世帯に配布いたしましたパンフレット「備えよう！インフルエンザ」をご一読いただき、接種をご検討ください。

保健・福祉



糖尿病予防食は“健康食”

糖尿病を防ぐためには、「過食をさけ、必要な栄養素をバランスよく、毎日規則正しく食事をする」ことが基本です。これは、健康で長生きするための食生活でもあります。

（献立づくりの考え方）

摂取エネルギーを制限しようとする、どうしてもカロリーのことがばかりにとらわれてしまい、栄養バランスがおろそかになりがちです。主食、主菜、副菜、さらに汁物などもそろえるようにすると、バランスのとれた献立ができます。

おいしく食べられる！ 459kcalの献立例（塩分2.6g）

塩分・カロリー控えめでも

（献立作成者：佐藤栄貴士）

	献立名	材 料	作 り 方
主食	ごはん 240kcal	お米 (ごはん) 75g (150g)	
主菜	牛肉とオクラの唐辛子風味 141kcal 塩分1.1g	牛もも肉 40g しめじ 30g もやし 80g 赤唐辛子 適量 ごま油 小さじ1 酒 小さじ2 薄口しょうゆ 小さじ1弱 A オイスターソース 小さじ1 サニーレタス 10g	①牛肉は食べやすい大きさに切る。しめじは、石づきをとり分ける。 ②フライパンにごま油を熱し、赤唐辛子の小口切りを加え、香りが出たら牛肉を加えて炒める。さらにしめじ、もやしを炒めあわせ、Aを加えて味がなじむまで炒める。 ③サニーレタスを敷いた皿に盛りつける。
副菜	オニオンサラダ 28kcal 塩分 0.4g	たまねぎ 40g 削りガツオ 0.8g レモン汁 小さじ2/3 濃口しょうゆ 小さじ1/2 みりん 小さじ1/2 水 小さじ2/3	①たまねぎは薄切りにし流水に10～15分さらし、ざるにあげて水気をよくきる。 ②レモン汁、濃口しょうゆ、みりん、水を混ぜ合わせる。 ③器にたまねぎを盛り、削りガツオのをせ②をかける。
汁物	みそ汁 50kcal 塩分1.1g	ほうれん草 20g にんじん 10g 油あげ 5g ねぎ 5g 水 150cc いりこ 2g 味噌 8g	①にんじんと油あげは食べやすい大きさに切る。 ②ほうれん草は軽くゆでて、ざく切りにする。 ③ねぎは小口切りにする。 ④いりこでダシをとり、にんじんをやわらかくなるまで煮る。油あげを加え、みそをとく。ほうれん草を加え、③をちらす。

家族みんなの健康づくり
～糖尿病を防ぐための食卓～

「健康への友の会」を知っていますか？

糖尿病予防・重症化予防のために、栄養士に立ててもらった献立をもとに勉強しあっている会があります。それが、九里町民の方の組織「健康への友の会」です。2ヶ月に1度、保健センターに集まり、調理実習や試食をしたり、講師を呼んでの学習会などもしています。糖尿病の気になる方や、健康について学びたい方など、どなたの参加も自由です。「健康への友の会」についての問い合わせ先は、保健センター（TEL.6-3838）です。

健康と日常に関する 家庭訪問のお知らせ

がん、脳卒中、心臓病など生活習慣病が増加しています。健康なうちから、自分の生活習慣を見直すことが重要になることから町民の方約50名を対象に上記の訪問を実施します。この訪問は健康状態や日常生活の状況についてお聞きし、これからの健康づくりに役立てていただくものです。

訪問するのは、訪問保健師の近田アヤ子さん・訪問看護師の尾方万亀子、帆足保子さんです。実施期間は、11月から3月です。お伺いした際は、ご協力のほどよろしくお願いします。

平成15年度版

「母子健康手帳」表紙デザイン募集

- ① 母子が親しみやすい図柄を15センチ四方程度にまとめたもの
- ② 原則カラー。他に未発表のもの
- ③ 作品の裏に住所・氏名・年齢・連絡先の電話番号を記入
- ④ 応募作品は返却しません。採用作品の著作権は大分県に帰属。

応募先及び問い合わせ先

〒870-8501 大分市大手町3-1-1
大分県福祉保健部健康対策課母子保健係
☎ 097-536-1111（内線2672）

締 切 平成14年12月20日（金）必着



環境



ごみを減らしましょう!

ごみ減量の取り組みは
明日からではなく、
今日からみんなで始めましょう。

21世紀は、これまでの「使い捨て」の社会に別れを告げる世紀です。

それは、地球からいただいた大切な資源を上手に使う「循環型社会」をみんなで形成する世紀なのです。

今、九重町はごみ問題に直面しています。現代社会は物が豊富で、便利な生活を過ごしていますが、反面増え続けるごみの問題があります。このごみ減量の取り組みは、一人ひとりが身近な生活を見直し、ごみをつくらない生活に努める必要があります。

皆さんのご協力をお願いします。

何よりも「ごみを出さない」

出たごみは「できるだけ資源として使う」

どうしても使えないごみは

「きちんと処分する」

をみんなで心がけましょう



ごみ出しのお願い

- 朝8時30分までに所定の場
所に出してください。
- 指定のごみ袋以外は収集し
ません。
- 指定物以外の物が入ってい
た場合は収集しません。

以上のように暖房器具
は正しく使い、快適に過
ごしましょう。

⑥ 対震自動消火装置の
ついたものを使用する。

⑤ 石油ストーブやファ
ンヒーターの近くでス
プレー（殺虫剤など）
は使用しない。

④ 灯油とガソリンの容器
は別の場所に置く。

③ 使用する前に掃除をし、ほこりなどを取っておく。
④ 給油を行う時は、必ず火を消して給油する。また、
灯油とガソリンの容器

② ストーブの上で衣類などを乾燥させない。また、こ
たつに押し込んで乾燥させない。

① 石油ストーブやファンヒーターを、燃えやすい物の
側に置かない。

暖房器具は安全に!

ごちそう
11月



このえ 農業委員会 だより 3号

農地パトロール実施

地域の農地管理対策活動として農地の遊休・荒廃化の防止・解消と無断転用防止等を目的に、9月、農地パトロールを実施しました。

東飯田 聞き取り調査では減反がなくなれば耕作すると言

う農家もありますが山沿いの日照・区画・道路等の条件の良くない所では荒れた農地も見られました。農作物の低価格の下では遊休農地が広がることと予想されますがそのような所に適する作物等も考えなければならぬと思います。**(野上委員)**
野上 山沿いを中心に荒れた農地が多く見られるようになりました。特に後継者のいない所や猪の害があるところで、一時的と思われるが耕作のできていない所もありました。今後山沿いの不整備地と猪害が課題です。**(六井委員)**

飯田 耕作放棄の理由としては、高齢化、猪等被害農地の散在、排水や日照が耕作条件に適さない等があるようです。貸したい、借りたい、売りたい、交換したいなどの情報を常時公開し調整すること、有効利用に繋がると考えます。また有害獣駆除の徹底、ほ場整備や農作業受委託への支援も必要かと思われました。**(時松(祐)委員)**

南山田 集落の中心に近い場所は牧草や野菜などが作付けされているようでしたが山に近い所は荒れ放題の所が見られました。山間部の農地対策が必要であると思いました。**(木付委員)**

※農地に関する(貸したい、借りたい、売りたい、買いたい)ことのご相談は各地区の農業委員・農業委員会事務局にお問い合わせ下さい。

九重町農業簿記学校開講

新しい農業経営をめざして10月17日開講し、14名が受講しています。**(敬称略)**

永樂 拓(奥野二)

帆足要一郎(書曲二)

岩尾日出喜(小平谷)

清竹 敏明(寺床)

甲斐 薫(北方上)

若杉 義昭(口の園)

若杉小由合(口の園)

梅本 武彦(菅原本村)

坂本 敏治(梶屋)

梅本 幸徳(菅原本村)

飯田かよ美(粟野本村)

榎木 公男(串野上)

池部 彰洋(串野下)

有吉 節子(栗原)



すがお
武石晴夫 さん
(68歳・前辻一)

シリーズ 農業だいすき

奥さんの房子さんと二人で水稲80アール、和牛3頭、しいたけ栽培、夏季にはインゲンを栽培するなど多忙な毎日を送っています。「二人とも元気だったからやってこれた。百姓仕事は健康に一番いい。収穫の喜びが味わえる。」と語ってくれました。「仕事の後の晩酌は楽しみです。」とのこと。現在集落の中山間地営農組合のお世話もしています。書道や絵画に興味を持つ房子さんと、二人で「白鳥の湖」のバレエ公演を鑑賞するなど洒落た趣味もあります。

利用権再設定の手続きはお早めに

農地の利用権(使用貸借・賃貸借権)は、貸し手と借り手とで決めた期間の満了で、貸借関係は終了し、必ず返してもらえぬ制度です。利用権設定の契約を結んでおけばお互いに安心できます。

●貸し手の良い面

① 貸した農地は期限の終了後必ず返って来ます。

●借り手の良い面

- ① 経営規模の拡大ができます。
- ② 貸借期間中は安心して耕作できます。
- ③ 利用権を再設定することで継続して借りることが出来ます。

●借り手の条件

① 耕作又は養畜の事業を行う個人で、経営面積が借り入れ面積を含めて50アール(5反)以上となる者。

●利用権設定の手続きは?

今年の12月31日で農地の貸し借りの契約期間が終了する人、及び新規に貸し借りを予定している人は、早めに双方で相談し、手続きをしてください。

なお、必要書類は地区(集落)担当農業委員宅にあります。





平成14年度全国高校総体ホッケー選手権大会

部活動

体育部
野球部・ラグビー部 陸上部・ホッケー部 剣道部 バレーボール部 ソフトボール部 テニス部(男子・女子)

文化部
パソコン部・音楽部 放送部・新聞部 美術部 書道部 英会話部 (ESS) 華道部

同好会
卓球同好会・柔道同好会 将棋同好会・文芸同好会 VSG (ボランティア) 科学同好会・演劇同好会 郷土文化研究同好会

森高校では、学習プラス1(ワン)をモットーに“魅力ある学校づくり”に取り組んでいます。生徒一人ひとりが、学習活動はもとより部活動や生徒会活動・ボランティア活動に積極的に参加し、学校全体が活気に満ちあふれています。

学力の向上と、進路実績の伸びは県下で注目されています。

- (1) 2年次よりたくさんのコースを設定して、生徒の多様な進路希望に応えています。
- (2) 少人数授業を多く取り入れ、わかる授業、充実した授業の展開に努めています。
- (3) 放課後補習や学習会などで、弱点補強や実力養成を図っています。

海外留学



本校では毎年夏休みに海外留学生を派遣しています。昨年は同窓会・大分県・玖珠町・九重町の援助を受けるなどして、3名の生徒が約1ヶ月のホームステイ体験をしました。

過去2カ年進路状況

進路延べ合格者数

	進 学								就 職	
	国公立大学等		私立大学等		専 門 学 校				公務員	企業
	4年	短大	4年	短大	高専	准高	医療	その他		
平12	29	5	海外大学1 55	17	8	1	9	31	18	16
平13	33	7	海外大学1 81	12	16	0	7	39	7	10

森 高 祭

体育の部



森高校とはこんな学校です

1年女子 (飯田中学校出身)

私が森高校に入学すると決まってから、友だちができるか、勉強についていけるか、など不安だらけでした。でも、入学してみると、すぐにたくさんの友だちができ、みんな面白い人ばかりでとても安心しました。

学習面では、やっぱり中学とは少し違い、テストがとても多く、授業は進むのが速く、1つずつ理解していかないとすぐに、みんなに遅れてしまいます。1日の課題も難しいものばかりで、中学校の時の勉強時間では全く足りません。しかし、高校では中学校の時になかった教科もあり、楽しんで授業を受けることができます。

高校には進路相談などがあり、進路の相談に乗ってくれる先生もたくさんいるので、自分が本当にやりたいことが見つかる気がします。

部活動では、たくさんの部があり、自分の好きなことができます。部活は毎週土日もあったりして、きついけど、とても楽しいです。

私は今、とても充実した高校生活を送っています。みなさんも行きたい高校に行って、よい高校生活を送れるように頑張ってください。

通学合宿

飯田小学校の4～6年生のうち15人が共同生活を行い、学校に行く「通学合宿」が10月6日から12日までの1週間、泉水コミュニティーセンターで行われました。

この「通学合宿」は、子ども達が、料理や掃除などの生活体験を行うことで、自らが考え行動する力を養おうというものです。1週間の予定や料理メニューも子ども達の手で考えました。

10月10日の夕方、通学合宿中の子どもたち取材しました。学校から帰った後ということで、各々が宿題を片づけたり、料理の準備をしたりしていました。料理は当番制で、今日のメニューは、オムライスとクリームシチューです。この合宿は、PTAのみなさんも参加し、料理などのアドバイスをしていました。

子ども達は、「最初から自分たちでやらなければならないので、大変だけど、楽しいです。」と話していました。「子



ども達たちは、とってもイキイキしていますね」とPTAのみなさん、「あとは、家に帰って、お手伝いをしっかりしてもらいたいですね」と話していました。

この通学合宿、最後の夜となる、11日はキャンプファイヤーを行い、楽しい1週間の日程を終えました。



明倫幼稚園の稲刈り

9月26日、明倫幼稚園の園児が、稲刈り体験をしました。稲刈り体験を通じて、米を大事にする気持ちを育てると共に、地域とのつながりをもった取り組みを、と今年初めての試みです。

当日は、園児の祖父母や保護者も参加、幼稚園隣の武石平八郎さん宅の田んぼをお借りし、稲刈り体験をしました。作業は、20分ほどで終わりましたが、「鎌を使って稲刈りしたのは久しぶりです。稲を刈りながらお米を大事にしなければと思いました」と保護者のみなさんは話していました。園児も同じことを思ったようです。後日、架け干した稲を移す作業をしたそうですが、園児たちは、こぼれた米粒を大事に拾っていたそうです。

心の病を語り合う「家庭学習会」に参加を!!

精神障害を持つ家庭のみなさんが正しい知識と理解を深め、どうしたら一日も早く回復し社会復帰ができるようになるかをみんなで語り合う学習会を次のとおり開催します。

と き 平成14年12月3日(火) 午前10時～午後3時
と ころ 日田市中央公民館(文化センター)
参加料無料。当日弁当は準備してあります。

内 容

- 1 講 演 佐藤正人さん(大分県精神障害者福祉会連合会会長)
大隈紘子さん(大分県精神保健福祉センター所長)
- 2 体験発表
- 3 個人相談室設置

問合せ先 日田玖珠保健所玖珠支所 2-1150
九重町保健センター 6-3838
玖 珠 家 族 会 2-6306



人権擁護委員に
佐藤信義さん(後述)

この人権擁護委員に佐藤信義さんが10月1日付けで委嘱されました。人権についての困りごと、心配ごとがありましたら一報ください。

人権擁護委員は、法務大臣が委嘱し、人権思想の普及高揚や人権侵害が起らないように見守り、人権を擁護するための活動を行なっています。

☎ ③ 3296

図書館だより

ほんの本
11月号

図書館開館時間

平日 10:00~6:00

土・日 9:00~5:00

月・祝 休み

※年末年始と特別図書整理日は休館します。

こんにちは！図書館です。

山の木々も、秋色いよいよ深まり、だいぶ日も短くなりました。
味覚の・行楽の・スポーツの・美術の・実りの、それぞれの秋を
楽しく過ごさぬことなのでしょう……。

ところで、忘れてならない「読書の秋」!!

ゆっくりと冬の足音がきこえるこのころ。お気に入りの一冊を探しに、図書館へきてみませんか??

今年の読書週間の標語、一自分が変わる、世界が変わる—こんな本とのめぐり合いを図書館も応援しています。

図書館の本から

ページをめくるだけでも楽しい
心が豊かになる本をピックアップしてみました。



『地球としごとをする人たち』

幸田シャーマン 著 (519円・一般書)

幼児への「環境教育」現場と地球の環境問題
に取り組むリーダーたちの30の証。「人間と森
との関係は、互いに呼吸で結ばれた神秘的な関係。
森の吐く息をわたしたちは吸い込み、わたした

ちの吐く息を森は吸い込んでくれる。」環境問題を読み解くインタ
ビューが盛りだくさんの、考えさせられる一冊です。



『しばわんこの和のころ』

川瀬良枝 作 (386円・絵本)

「和」のしきたりや風習、その奥深さや面白さ
を楽しいイラストとストーリーで描く。日本家
屋で仲良く暮らす柴犬のしばわんこと三毛猫の
みけにゃんこたちが、日本茶の入れ方や座布団

のすすめ方などを実践する「和のおもてなし」を始め、お正月の迎
え方、衣替え……など四季折々の内容で、オールカラー64ページ
という贅沢な構成! 和の暮らしを楽しく学べる「新しい歳時記」と
して大人から子どもまで味わえる絵本です。



『ニングルの森』

倉本 聡 著 (923円・一般書)

十勝岳の奥の原生林に棲むニングルの長が語
る10のお話。太陽の話、昔の話、木、時間……。
百年ごとに会う水溜が語る山のこと、ダムのため
に海の匂いが嗅げず、死につくある蛙のこと。

ニングルたちが初めて声にした警告の数々。耳を傾けたい。

『数学オリンピック』

数学オリンピック財団 編 (410円・一般書)

数学好きの高校生が腕を競う国際数学オリンピック。1997~
2002年の日本予選・本選とIMO(2002年の英国大会)の全問
題を解答付きで収録しています。世界中の高校生たちが挑んだ超難
問・良問に、あなたもアタックしてみても?

『ハンナのかばん』

カレン・レビン 著 (234円・一般書)

2000年、アウシュビッツから東京に届いた古びた「かばん」。「ハ
ンナ・ブレディ、1931年5月16日生まれ、孤児」これが、持ち主
についてわかっていることのすべて。かすかな手掛かりをたどって、
一人の日本人女性がハンナを探る旅に出た。カナダで出版され、ベ
ストセラーとなったノンフィクションの翻訳本です。

『メダカが田んぼに帰った日』

金丸弘美 著 (616円・一般書)

今や絶滅危惧種となったメダカが「不耕起栽培」

という米作りの農法で田んぼに帰ってきた!! 田

んぼに何が起ったのか? 自然を呼び戻した「不

耕起栽培」とは? 耕さず、農薬も化学肥料も使

わない稲作を取り戻す! 田んぼと自然と、人の物語。

『裏山の皇子』

大江健三郎 著 (913円・一般書)

四国の森に移り住んだ小説家、古義人を襲う事件の数々。ドン・
キホーテ的な立ち回りで窮地に陥る古義人が最後に見る風景とは…
…大江作品の中でも読みやすいと評判です。

『王国 その1 アンドロメダ・ハイツ』

よしもとばなな 著 (913円・一般書)

身内の愛情、目に見えない存在、育った土地

のエネルギー。孤独だと思っても、ひとりて生

きてるつもりでも、人はどこまでも何重にもそ

うした存在に守られている。「よしもとばなな」

と平仮名に改名した物語は、ばなな文学の原点を感じさせてくれる
はず。一読を。

『しりとりとあそびえほん』

石津ちひろ 作 (E-1・絵本)

いいなあ、しりとりにすぎだなあ。あらためてそう思わせる絵本。

しりとりは、ひっちゃきにならなくていい。ちんたらするのがいい。

荒唐無稽なイメージが通れば、ふふふと楽しい。そんなのほん

とした面白さを、たっぷり味わえる本。隅々にまで隠れた遊びを見

つけて、うれしくなるかも。

『最後のだっこ』

浅田志津子 著 (911円・一般書)

母と子をテーマにした詩集。阪神・淡路大震災復興支援コンサ

ート優秀賞受賞作「鼓動」を始め36篇を収録。竹下景子とやなせた

かし氏も絶賛のおススメ本。どの篇もせつなくて温かくてキューン

とくる、いとおしくなる小冊子です。

『マジシャン』

松岡圭祐 著 (913円・一般書)

突然金回りのよくなった一般市民を不正収入の疑いで調べていく

と、彼らが口を揃えて「目の前でカネが湧く」と証言。そこに

手品めいたトリックを感じた刑事は、プロのマジック・ショウへ

聞き込みを……。奇術的金融詐欺のカラクリは??



Talk & Live Show イルカ

2002年12月2日(月)
九重文化センターホール
18:30開場 19:00開演

冬・コンサート

冬コンサート

トーク&ライブショー イルカ

2002年12月2日(月)

18:30開場 19:00開演

主催

九重町・九重町教育委員会

実行委員会

お問い合わせ: 6-3888

(生涯学習センター)

※当日券が若干あります。

文化センター イベント情報



秋・コンサート



10月30日、九重文化センターにて「豊嶋泰嗣と仲間たち」クラシックコンサートがありました。姉妹都市の佐世保市で同じコンサートがあり、九重町にもぜひということでも実現したものです。

この日のコンサートの前半では、豊嶋さんを中心に出演者のみなさんの楽しいお話を交えながらのものでした。しかし、いざ演奏にはいると、引き締まった雰囲気。一番古いもので1690年(バッハが4歳の時)に作ったという楽器が奏でる芳醇な音色に、250名の観客は、魅了されていました。

第3回 いのち・愛・人権フェスティバル

語ろうよ 思いを 聴こうよ ねがいを
あなたの参加をお待ちしています。

とき 12月7日(土) 18:30~

ばしょ 九重文化センター

内容: 発表部門(手話通訳あり)

① わーくすたんぼぼ・たんぼぼの会による楽器演奏

② 意見発表

「がんばれ母さん」東飯田中学校3年 篠原勇児 君

③ 構成劇

展示部門(期間12月4日~8日)

① 人権標語展示

② 人権写真展示

③ 人権パネル展示

展示場所: 九重文化センター

平成14年12月4日(水)~10日(火)は人権週間です。



読書サークル アンの会

このグループは、1週間に1度集まり、読書会を開いています。メンバーは、6人。麻生二三子さん(上田)が、「みなさんが読書できる機会を」と呼びかけたのがきっかけです。1年

▲読書サークル用のバックをもって

半位前から始められ、これまで読んだ本は赤毛のアンシリーズから2冊。会の名前もこの本からとりました。ここでは、声を出して本を読むようにしています。このことにより脳の活性化につながるそうです。赤毛のアンの良いところは、多感な少女の描写が優れているだけでなく、年齢に応じて違った味わいができること。それでも、本の中で子どもの頃や若い頃に戻り、一緒にわくわくする気持ちに変わりはありませ

ん。時には、本を読みながら笑ったり、泣いたりすることもあります。お互いに声を出して読むことで、感動を共有できるのもいいところ。みなさんは読書の魅力を存分に味わっている様子でした。

読書だけでなく、終わったあとのお茶飲み会も楽しみの一つです。また、最近、タイミング良く赤毛のアンが映画化され、それも観に行くそうです。

みなさんにたくさんの楽しみをくれた「赤毛のアン」は、もうすぐ読み終わります。次回は、藤沢周平の嶺ぐれにチャレンジです。

「読書グループは、本があれば、気軽に始められます。とても楽しいので、ぜひ始めてみてはいかがですか」とアンの会のみなさんは話していました。



ま ち の 話 題

九州高校駅伝

九州選抜高校駅伝競走大会が、10月13日、飯田高原・千町無田を舞台に行われました。

九州の高校駅伝の強豪が集まるこの大会も今回で、7回目。ライバル校の実力を知る絶好のチャンスと、選手たちにもすっかりおなじみとなりました。今回参加したのは、オープン参加3チームを含めて22チーム。絶好の景観と地元のみなさんの応援を胸に熱戦を繰り広げました。

この大会は、多くの地元ボランティアのみなさんの手で運営されています。高校生の旺盛な食欲を支える料理もそうです。泉水「ミニティーセンター」に合宿する選手250人のため、大会の数日前から当日まで、朝早くから夜遅くまでの食事作りが続きます。町内から調達されるという食材は膨大です。「ひとり、どんぶりで軽く2、3杯は食べる」、その言葉とおり30キロ入り米袋が6袋積みまわっていました。

- 第7回九州選抜高校駅伝競走大会結果
- 1位 白石高校（佐賀県）2時間7分47秒
2位 福大深瀬高校（福岡県）2時間8分54秒
3位 諫早高校（長崎県）2時間9分1秒



選手たちも料理などを手伝います。カツカレーが人気メニューだそうです。



ま ち の 話 題

ガーデンマム観賞会

野矢に今年オープンしたサンアグリフラワー農場・花摘み園で10月13日、ガーデンマム観賞会がありました。ガーデンマムとは、菊の新品種です。これをはじめとした様々な種類の菊が4ヘクタールの花畑に植えられています。今回の催しは、この農場を経営する佐藤利則さん（小畑）を中心にグリーンツーリズム研究会や野上を語る会のみなさんなどの協賛により開催されました。会場では、菊の花を使った混ぜごはんなどの出店があり、多くの人でにぎわっていました。

この農場は、国道210号線から「はらほろドキドキロード（佐藤さん命名）」という未舗装の道を5分ほど入ったところにあります。

佐藤さんは、ここで、（都市の人々が農作業体験をしながら休憩を過ごす）グリーンツーリズムをしています。

「グリーンツーリズムをやってみて、最初は体験者に、農作業の苦労がわかってもらえます。それが何回か足を運ぶうちに感動につながるんですね。私もうれしくなります。中には、ここに住みたいという人もいますよ。こんなところで、何かやれば、人は来る。これからは情報発信が必要だと思います。それをしながらお客さんが何を求めているか、知ることも必要ですね。確かにお客さんが来ると、農作業が遅れますが、会話を通じて新しい感覚を植え付けてくれます。何よりもお客さんに喜んでもらうことが、励みになります。これが、これからの農業のあり方だと思います。大もうけでなく、少しずつお金を落としてもらう、この積み重ねが地域の産業を興すことにつながるんじゃないかなあ、と思います。」と佐藤さんは話していました。

◀はら取き大塚
1鉢30円！ウマイ！！

▼右が佐藤さん



ま ち の 話 題

第34回町民体育大会

今年で34回目となる町民体育大会が、10月13日、活いきランドを主会場に町内一円で行われました。

開会式では、まず、町民体育の普及・発展に功労があった35人を表彰。大会主催者、来賓あいさつのあと、井上孝太郎さん（富来口）が選手宣誓。「日頃の長靴や地下足袋を脱ぎ捨て、スニーカーやシューズに履き替え、グラウンドを駆け回ることを約束します」という楽しく、力強い宣誓に会場は、笑いに包まれ、なごやかな雰囲気の中に熱戦の火種がおろされました。

- 今回の町民は、10種目25競技に分かれ、行われました。総合順位は次のとおりです。
- 1位：南山田
2位：野上
3位：東飯田
4位：飯田



まちの話題

女性活躍セミナー閉講

男女が性別に関わりなく、対等な立場で能力が発揮できる社会の実現を目指し、今年も開催された「女性が輝く地域セミナー」が、5回の講座を終え、9月25日に閉講式が行われました。

閉講式で、青森教育長は、「人々の間には、未だに、女のくせに、とか男らしく、女らしく、女だから何々をしなければならぬ、というような固定意識が残っている。このような意識を取り払いながら、女性が個性や能力を発揮できる社会を実現していかなければならない。みなさんにがんばってもらい、女性が輝く社会の実現に向けて一歩一歩すすんでもらいたい」とあいさつをしました。

当日は、聴講者16名、(一回欠席したのみの)努力賞13名が表彰されました。

森崎幸子さん

今年初めて参加しました。めげそうになったときに、この講座のことを思い出して、がんばらなければと思いました。(学んだことが何かひとつでも役に立つように努力したいと思います。)



食品添加物の講義から、何十年ぶりの実験です。



まちの話題

第10回長野馬貞顕影俳句大会

九重町が生んだ俳人長野馬貞を偲ぶと共に俳句を親しむ機会をと、今年も9月27日、長野馬貞顕影俳句大会が行われました。第10回目となる今年も、郡内だけでなく県内外からも228句と、たくさんの方の応募がありました。

この日は、応募のあった作品の中から倉田雄文先生、足立雅景先生の選んだ特選20句・佳作39句が表彰されました。

開会行事の中で、実行委員長の高生良昭さん(北恵良3)は、「馬貞は、江戸将軍4代にわたって活躍。特に古宗時代に活躍した俳人。松尾芭蕉晩年の弟子、野坡の門下に馬貞は入ったが、馬貞の句は、晩年の芭蕉及び野坡の持つ、軽み、通俗性だけでなく、芭蕉が若い頃持っていた」わび、さびの境地を持っていた。このような大会を開くことにより、俳句人口が増え、文化向上につながる。生涯学習の時代である。俳句に親しむことが生きがいにつながることを願います」とあいさつをしました。

当日は、会場に集まったみなさんから、投句を集め、その腕前を競う催しも行われ、秋の七草が飾られた会場は穏やかな雰囲気になっていました。

▼特選のみなさん



倉田雄文先生による講評



介護料支給制度のご案内

～自動車事故により重度後遺障害者となられた人へ～

自動車事故により、脳・脊髄又は胸腹部臓器を損傷し、常時又は随時介護を必要とする状態にある人には、介護料が支給されます。

支給対象者

自賠責保険後遺障害等級1級3号・4号又は2級3号2級4号の認定を受けている人又はそれに相当する人

支給額

常時介護の人：月額 58,570円～136,880円

随時介護の人：月額 29,290円～ 54,000円

支給期間：申請のあった日から介護料の支給条件に該当しなくなった日まで

問合せ先

自動車事故対策センター大分支所 業務課
TEL.097-534-9341

交通安全

平成14年町内地区別事故発生状況(累計、県地)

地区別	人身事故		物損事故		件数計
	死者	負傷者	件数	事故	
東飯田	0	19	10	32	42
野上	1	32	19	68	87
飯田	0	57	31	172	203
南山田	0	25	12	56	68
計	1	133	72	328	400

(平成14年10月末現在)

日田玖珠広域市町村圏事務組合火災予防条例と

消防法及びその関係規則が改正されました。

1. 火災予防条例の一部改正について（要約）

(1) 消防法及び関係規則が改正となったことによる条例の一部変更、また消防法施行令で火災予防条例の基準が定められることになり、火気取扱い機器等の火災予防上取るべき離隔距離が整理されました。（離隔距離については一部を除いて従前の規定を踏襲。）

(2) 火災予防条例違反の罰金が20万円から30万円に引き上げられました。

2. 消防法及び関係規則の一部改正について（要約）

(1) 消防法違反の経営者等に対する罰則規定が強化され最高1億円となりました。

平成14年10月25日より適用

(2) 消防の立ち入り検査が時間、場所（個人の住居を除く）を問わず、また事前通知をせずにできることとなりました。

平成14年10月25日より適用

(3) 消防用設備等や火災予防上の改善（措置）命令を受けた場合、建物の入り口等に違反の内容を書いた標識を提示又は広報等がされます。

平成14年10月25日より適用

(4) 3階以上を店舗、飲食店、風営店、旅館等に使用し、かつ防火管理者の選任を要し屋外階段等を除く階段が1のもの、または同用途で収容人員が300人以上のものは現在行っている消防用設備等の点検報告とは別に、防火管理等に関する点検を有資格者から受け、結果を消防長等に報告しなければならない事となりました。

平成15年10月1日より適用

(5) 自動火災報知設備の設置基準が拡大されました。店舗、飲食店、風営店、旅館等を含む雑居ビルは300平方メートル以上で、また3階以上に同様の用途部分があり屋外階段等でない階段が1のものについて、新たに設置義務が生じる事となりました。（今ある建物は平成17年10月1日までに設置する事が必要です。）

その他避難器具の設置基準の拡大、消防用設備の完成検査を要する対象物の拡大等を含め、これら以外にも改正された事項があります。詳細については消防署予防係までお問い合わせください。

玖珠消防署予防係 ☎ 2-2141

大学生・社会人のための冬季海外派遣参加者募集

対象 18歳以上

行き先 オーストラリア、アメリカ、インドネシア、カンボジア

中学・高校生のための春休み海外派遣参加者募集

行き先 オーストラリア、ニュージーランド、イギリス、カナダ、アメリカ

いずれも派遣期間は10～14日です。

内容 ホームステイ・文化交流・地域見学等

参加費用 行き先により20～40万程度

詳細の問い合わせ・資料請求は

(財)国際青少年研修協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷2-11 大村ビル3F

☎ 03-3359-8421

E-mail: info@kskk.or.jp

URL http://www.kskk.or.jp

消防設備点検資格者講習会

講習の種類及び講習期日

①第1種消防設備点検資格者講習

平成15年1月21日～1月23日 3日間

②第2種消防設備点検資格者講習

平成15年1月28日～1月30日 3日間

講習会場 新日鉄明野研修センター「攻玉寮」

受講申請（受付）期間

平成14年12月16日～15年1月15日

消防設備点検資格者再講習会

講習の種類及び講習期日

①第1種消防設備点検資格者再講習

平成15年2月20日 1日間

②第2種消防設備点検資格者再講習

平成15年2月21日 1日間

講習会場 大分県教育会館

受講申請（受付）期間 平成15年1月20日～2月14日

お問い合わせ及び申請書提出先

〒870-0023 大分市長浜町2-12-10 昭栄ビル4F

(財)大分県消防設備安全協会 ☎ 097-537-3125

講習の手引き（受講申請書）備付場所

県消防防災課、県下消防（局）本部

(財)大分県消防設備安全協会

水稻の農業所得標準が廃止になります

水稻の農業所得標準が平成15年分から廃止されることになりました。これによって、すべての農業所得者は、所得税の申告又は住民税の申告については、実際の収入金額から必要経費を差し引く収支計算により農業所得を計算し、申告していただくことになります。

平成15年1月1日からは、収入金額の明細書等や必要経費の領収書・証明書等を保存しておかれますようお願いいたします。

特に肉用牛の「肉用牛売却証明書（生産者用）」は、免税（所得税・住民税）の対象になりますので、なくさないように保存しておいてください。

なお、収支計算でわからないことがありましたら、お気軽に役場税務課や日田税務署へおたずねください。

問い合わせ先 九重町役場税務課 ☎ 6-3803（直通）

日田税務署個人課税部門

☎ 0973-23-2136（代表）

阪神淡路大震災で被災された方へ 被災者自立支援金の特例制度

全壊等した世帯の被災時世帯主を含む、平成12年4月28日時点の世帯が支給対象となりました。

詳しくは、兵庫県生活復興課

☎ 078-362-4022まで

住宅金融公庫の住宅債券 「つみたてくん」募集

計画的な積立てでマイホーム資金づくりをお手伝いします。たくさんの方のメリットでマイホーム計画をさらにバックアップ。

募集期間 平成14年10月21日(月)～12月6日(金)

お問い合わせ先 住宅金融公庫南九州支店

☎ 096-387-2000

平成14年度 青少年ふれあいチャレンジ 体験促進事業

と き 平成14年12月7日(土)～12月8日(日)

ところ 大分県立九重少年自然の家

対象 子どもとその保護者100名

内容 野外活動……アスレチック、草すべり、
スターウォッチング
屋内活動……キャンドル作り、リース作り、
民芸品作り、フォトパッチ作り

経 費 1人2,000円
(3食食事代、シーツクリーニング代、保険料等)
ただし、活動によっては実費が必要です。

申込み 参加希望の方は、12月3日(火)までに、直
接九重少年自然の家まで申し込んでください。
TEL.9-3114 FAX.9-3115

製造事業所の皆様へ 工業統計調査 にご協力ください

本年12月から来年1月にかけて調査員がお伺いします。
なお、調査票に記入していただいた内容については、
統計法に基づき秘密が厳守されますので、数字等の正確
な御記入をお願いします。

平成14年12月31日現在 経済産業省・大分県・九重町

県営住宅入居者募集

募集対象住宅 松岡台住宅 1戸

申込期限 平成14年12月10日(火)

入居についてのお問い合わせ・申し込み

建設課計画管理係 ☎ 6-3811

無料法律相談

相談担当 日田公証役場公証人

予約制 平日に事前電話受付します。
(予約電話番号 0973-24-6751)

相談日 いずれも日曜日
12月分は、1日と、15日
1月分は、12日と、19日
2月分は、2日と、16日

場 所 日田公証役場
(日田市田島2丁目 日田市役所前交差点南東角)

相談内容 遺言・相続、高齢者の財産管理、売買、不動
産賃貸借、金銭貸借、離婚など

相談時間 午前9時～午後5時 1組約1時間

お知らせ

大分地方法務局玖珠出張所は、平成15年2月3日(月)
をもって大分地方法務局日田支局へ統合することになり
ました。玖珠町及び九重町に係る登記事務は、同日から
大分地方法務局日田支局で取り扱うことになります。

所 在 〒877-0025 日田市田島2丁目11番46号
☎ 0973-22-2719

主な交通機関 JR日田駅下車、徒歩13分
日田バスセンター下車、徒歩17分



「第20回お正月ホームステイ・大分」 受け入れ家族募集

日本へ留学しているみなさんへ、日本の正月を体験し
てもらうため、ホームステイ受け入れ家族を募集してい
ます。留学生は日本語ができます。

受入期間 12月25日(水)～1月5日(日)

お問い合わせ 郷土の文化と国際交流を考える会
☎ 097-546-0261 (平野さん)

今月の 年金相談

日時 11月25日(月)10:00～15:00

場所 九重町役場1階・102会議室

今月の納税 納期限12月2日

【国民健康保険税】11月分

【町 県 民 税】第3期

幸せになるってね

Vol.25

被差別部落の起源はいろいろあると聞きますが、
どんなものがあるのでしょうか？

被差別部落の起源については、為政者によって政治的に
つくられた「政治起源説」と
いうことがこれまでの研究で
明らかになってきていますが、
世間一般では、いろいろな説
が語りつがれてきています。

その多くは全く根拠のないも
のであったり、部分的に見れ
ば合致しているものの全体的
な起源となると問題のあるも
のですが、それらが一部には
根強く信じ続けられ、今日の
部落差別意識の解消に大きな
障害となっています。これら
誤った起源説のうち代表的な
三説を紹介しておきます。

(1) 異民族起源説

「同和地区住民の祖先は帰
化した異人種、異民族である」
という説です。これは、学説
と名づけることもできない全

くでたらめなものです。日本
の古代社会において渡来人が
差別された事実はありません。

応神天皇のときに漢の高祖
の子孫である百済の王仁（わ
に）氏が来朝して、論語、千
文字をもたらして以来、朝鮮
半島からの大陸文化は、仏教
をはじめ医・易・暦・機械・
建築その他衣食住全般にわた
って先進的な学問、技術を日
本に伝えました。飛鳥や白鳳、
さらに天平文化の多くはこれ
ら渡来系の人々によって花開
いたものですし、加藤清正ら
が朝鮮出兵の際連れ帰った陶
芸技術者は各藩で重んじられ
てきました。

しかし、江戸時代中期ご
ろから、一部に朝鮮を見下げ
る考えが起こつてきました。
そして、同和地区の祖先は異
民族だとか蝦夷（えぞ）だと

いう説が生まれてきました。
この考えは明治以降、我が国
の大陸侵略政策の中で広めら
れました。民族や人種の違い
で差別することはもとと誤
つていますが、「異民族起源
説」には根拠がありません。

(2) 宗教起源説

宗教起源説は、大昔、神に
仕えた子孫や呪術を伝えた子
孫が、「鎮護国家」をスロー
ガンとする中世の国家仏教が
盛んになるにつれて差別され
るようになったという説をい
います。この説には、大衆に
おける差別意識について十分
には説明できないと考えられ
ます。

(3) 職業起源説

職業起源説とは、「殺生禁
断」の仏教思想が広まるにつ
れて、動物のと殺など人のい
やがる仕事をしていた人々の
子孫が差別されるようになって
たという説です。

「第5次人権・同和問題地区懇談会」
でされた意見や疑問点をまとめ
た「人権・同和問題Q&A」の中
から抜粋したものです。

＝平成14年11月・12月休日当番＝

病 院	月	日	医療機関名	住 所	電 話
	11月	23日	玖珠記念病院	塚 脇	2-1127
		24日	井上 医 院	恵 良	6-2711
			北山田クリニック	北 山 田	3-2030
	12月	1日	友成(産婦人科)医院	塚 脇	72-0330
			武 田 医 院	森	72-0170
		8日	小 中 病 院	塚 脇	72-2167
			飯田高原診療所	飯 田	79-2138
		15日	後藤内科医院	昭和町	72-0676
			矢 原 医 院	野 上	77-6121
		22日	高 田 病 院	春日町	72-2135
		23日	長内科小児科胃腸科医院	春日町	72-2143
			廣生消化器科内科医院	山 田	72-7100

ス タ ンド	月	日	店 名	月	日	店 名
	11月	24日	森 石 油	12月	8日	河 野 石 油
					15日	竹 尾 石 油
	12月	1日	小 幡 石 油		22日	森 石 油

備 科 医 院	月	日	医療機関名	住 所	電 話
	11月	23日	井 上 歯 科	右 田	7-6851
		24日	中村 歯 科 医 院	日田市	0973-23-2228
	12月	1日	樋口歯科クリニック	日田市	0973-22-8881
		8日	井上第2歯科医院	玖珠町	72-5983
		15日	桑野 歯 科 医 院	日田市	0973-22-2556
		22日	小野 歯 科 医 院	天瀬町	0973-57-2102
		23日	倉成 歯 科 医 院	玖珠町	72-0450

獣 医	月	日	獣医師名	電 話
	11月	24日	佐 藤 獣 医	7-6448
	12月	7日・15日・23日		
	11月	30日	山 本 獣 医	8-9101
	12月	8日・21日		
	11月	23日	翁 長 獣 医	7-6620
	12月	1日・14日・22日		

備考 大分県中西部農業共済組合 ☎②3409
休日当番の電話番号(携帯)は090-5721-8191

★都合で変更する場合があります 玖珠消防署：●救急は119番 ☎ 2-2141 ●火災の確認は ☎ 2-5100

歳時記

季節

12月号

「落葉」(11月25日締切)

1月号

「雪」「日向ぼこ」
「初電話」(12月20日締切)

「紅葉」「落葉」

今月の幸運

「紅葉」「落葉」

大鳥居分けてはらはら紅葉降る
踏む落葉踏むうほに燃ゆる赤
地に遠いし草も紅葉に映えて燃ゆ
黄と緑まじる紅葉のバズルかな
紅葉山一目八景台に立つ
孫と見し山の紅葉の日々に濃し
紅葉に負けじと老妻色弁当
紅葉より人の数見る景勝地
日あたりて淋しく落ちる紅葉かな
拉致無情心の中に落葉舞う
音すれど足跡はなき落葉道
菊の香を残して夕日沈み行く
倒れ菊そつと起してくくりけり
還暦日座敷に生けし菊香る
降りつゞく落葉を肩に載せて掃く

「大鳥居分けてはらはら紅葉降る」大鳥居の前後に別れて散る紅葉の美しさとは当に感動。「踏む落葉踏むうほに燃ゆる赤」赤い落葉の表現が鮮烈。俳句は内容、リズムに、も一つ漢字が多ければ見た目に固くなり、平仮名ばかりだと言葉のイメージが湧きにくい。

選者 麻生 良昭

このコーナーは町民どなたでも応募できます。ハガキに作品名と住所、氏名、電話番号をお書きのうえ企画調整課広報係までご応募を。

甲斐 和子
赤峰 幸子
的場 律枝
佐藤 元八
清竹 勇蔵
岩尾 奈加
佐藤 修正
藤澤 節子
井上 マキ
田浦 重雄
佐藤 節代
小野 ミツノ
佐保 達子
穴井 久美子
選者 吟

添削がありますのでご了承ください。 広報

このえ 時間旅行

ふるさと再発見 101

町村合併～九重町の誕生まで①

文化財調査員 甲斐素純

マスコミでは、また行政やまちづくりの議論の中で、市町村合併が話題となっている。この九重町が誕生したのは、昭和30年2月1日のことで、それ以前の私たちの郷土では、どのような村々があったのであろうか。各村の範囲は、人口は、そこにはどのような合併の歴史があったのかなど、これから計8回にわたってみていきたいと思います。江戸時代この九重町は、「天領」(幕府直轄領)

今月からタイトルを一新しました。九重町の豊かな歴史を自由に行き来するタイムマシンに乗ってもらおう、という意味が込められています。今回の船長は、「ふるさと再発見」でもおなじみ甲斐素純さんです。しばらくは、江戸時代から昭和にかけての九重町に時間旅行です。

といて、江戸幕府の直接支配を受けていた。玖珠・日田・下毛各郡の天領を直接支配する幕府の出先機関である代官所が日田市豆田地区に置かれ、代官(のち西国郡代に昇格)が赴任してきた。代官所には、武士である代官・元締・手代がいて、各種の取り締まり、行政を取り仕切っていた。また各村々には、その村の有力農民(高持ち百姓)が「庄屋・組頭・百姓代」(これを「村方三役」という)に任せられ、村の行事全般を司っていた。

通常村には、一人の庄屋がいたが、小村では、他の大村の庄屋が兼帯することもある。組頭・百姓代は、村ごとにそれぞれ数人ずついて、人数は村によって一定していない。玖珠の天領庄屋は、世襲の場合が多かった。

天保郷帳(1834)

村名	石高
恵良村	549.083
見良津村	138.338
松木村	1468.886
辻曲村	430.289
雲曲村	316.506
右田村	1078.375
上旦村	219.624
下旦村	272.485
野上村	1126.688
後野上村	581.267
田野村	389.613
湯坪村	266.885
町田村	1166.531
菅原村	502.745
引治村	917.627
小引治村	100.758
木納水村	103.172
栗野村	893.797

人の動き

弔慰

お悔やみ申し上げます

おめでとうございます

出生

おなまえ	年齢	行政区
麻生 勲	68	児良津
池部 悟	76	宝泉寺
安部 年一	75	書曲二
江藤 隆一	84	湯坪下
小野 奇見	88	金山
佐藤 一二三	82	小垣
衛藤 美喜子	77	湯上
小野 玉記	86	陣の内上
佐藤 昇平	82	中央三
日隈 コトノ	84	引治二

10月1日～10月31日届出分

人口と世帯

人口 11,967 人 (+ 3)
男 5,717 人 (+ 1)
女 6,250 人 (+ 2)
世帯 3,881 (-)
() は前月との増減

おなまえ	性別	保護者	行政区
穴井 里佳	女	八雄	中村
熊谷 龍輝	男	哲也	菅原本村
麻生 実里	女	昌希	拓郷
武田 秋摩	男	孝行	日向
後藤 正輝	男	正徳	川下
梅木 玲登	男	昭宏	書曲二

ふるさと九州の森林フォトコンテスト

- ① 写真の対象は、九州・沖縄の森林に限ります。
- ② 6切サイズ(1枚写真、カラーのみ)
- ③ 締切:平成14年12月25日当日消印有効
応募お問い合わせ
〒860-0081 熊本市京町本丁2-7
九州森林管理局広報室内
ふるさと九州の森林フォトコンテスト係
☎096-328-3600

「日本の朝日」フォトコンテスト

- ① 21世紀に撮影されたもの
- ② 4切サイズ(カラー・モノクロ可。デジタル・合成不可)
- ③ 締切:平成15年1月31日必着
応募お問い合わせ
〒509-3325 岐阜県大野郡朝日村万石782
朝日村役場企画振興課内
日本の朝日フォトコンテスト事務局
☎0577-55-3311
<http://www.hidaasahimura.net>
※いずれのコンテストも、自作未発表のもの。
応募票を作品の裏に貼り応募します。

九重町観光協会(役場商工観光課内)
☎03150 FAX02247
九重ふるさと館観光案内所
☎035510 FAX035511
くじゅう飯田高原観光案内所
☎02381 FAX02381
エルランテヨグランド ☎2217

11月25日 筋違甘酒祭り

11月23日～24日 やまなみ騎馬大祭
・乗馬体験、フラッグショー、馬術、
カントリー生バンドライブ、
フォトコンテストほか
(お問い合わせ)
エルランテヨグランド ☎2217



九重町ホームページアドレス(URL) <http://www.coara.or.jp/~kokonoe>

町長と語る ふれあいタイム

12月14日
(第4土曜日)

12月のお知らせ

午前10時から午後4時まで。
九重町役場でを行います。
お気軽においでください。

市外・市内局番の桁数変更

市外・市内局番の桁数が平成14年12月1日(日)午前0時から変更になります。

九重町・玖珠町

変更前 市外局番 09737-△-□□□□

変更後 市外局番 0973-7△-□□□□

例えば…役場の場合は、現在 09737-6-2111

12月1日から 0973-76-2111

編集後記

◆今月号も町村合併の問題に多くのページを割きました。九重町は、住民のみならず、県民にとってこの問題を考える町は、際しても重要で、いつの間にか、「九重町とは何だったのか」に思いを巡らし始めます。まちづくりの原動力を握り、それを活かすに活かすためにどうすればよいのか、その模索が始まっています。◆先月号と期間連動で6人の方にこの問題についてお伺いしました。これも後援をいただいた読者、充実したものを提供できました。ここでも掲載のあった「かつて九重町が抱っていたまちづくりパワース」自分自身、直接には経験していません。しかし、〇〇人会議などの熱意を覚えていると、「あ、これだな」と思えます。このパワースは、今後活かすべきです。自分が広報で伝えたいのもこれです。少々文字数が多くなるのが難ですが、今回の特集「まちを記録する」は、記録することを見直すことの大切さを伝えたいと思えました。市町村合併問題と関連でつながっている気もします。◆市町村合併は、国の失敗を押しつけるものだという反発があります。そのとおりかもしれませんが、町を見直す良い機会を与えてくれたとも言えます。今のところ、九重町は、この機会をうまく活かしています。先日、ある町の大変有名なまちづくりリーダーに話を聞くと、チャンスに恵まれました。その方は、こう言いました。「町のサイズが大きくなる時、住民自治をどうするのか。これが市町村合併で一番考えなければならぬこと」九重町は、この町をどうしようも大丈夫と信じています。(つづ)

町の面積 271.41km² / 町の木 くめぎ 花 ミヤマキリシマ 鳥 カッコウ

資源保護のため広報ここのえは古紙配合率100%の再生紙を使用しています。R100